

発表された。会場では特に、過去の土地利用情報を用いて計算を行い、局地的な気候変動を評価する方法について議論が交わされた。

セッション3「観測によるヒートアイランド現象の解明」では移動観測や多地点での観測結果から、都市ヒートアイランド現象の詳細な構造を論じる発表があった。このような観測は手間がかかることが多く、貴重な観測結果が数多くあった。会場では、これらの観測結果を都市人口や街路空間の幾何形状で一般化する方法について議論が交わされた。また都市域で使用可能なラスレーダについての発表は新しい観測手法として注目を集めた。

3. 招待講演

招待講演では(株)カイジョーの伊藤芳樹氏により「超音波風速計—開発の歴史と現状—」と題してお話をいただいた。超音波風速計は今や大気境界層研究にはなくてはならない測器である。講演では、開発初期のものから現在の方式に至るまでに数々の改良があったこと、そしてあの独特な形も様々に変わってきたことなどが写真で示された。伊藤氏は冷静な語り口であっ

たが、話された歴史には重みを感じられた。また、現在市販されている各社の超音波風速計の比較や、測定誤差の要因など、一般ユーザーによって非常に有用な内容について触れていただき、参加者からも好評であった。このような観測器材自体の話はなかなか耳にする機会は少なく、完成された測器として気軽に使用する研究者が多い現在において非常に貴重であったといえる。お忙しいところ講演を快く引き受けてくださった伊藤氏に感謝したい。

4. 第2の議論の場

大部分の参加者が信州大学のゲストハウスに宿泊してきたため、深夜まで議論（や議論らしきもの）を続けることができた。このような場での議論は会場での議論以上に白熱し興味深い話が聞けるものである。ここではその内容を紹介しないが、研究者としての自覚とは何かを問う厳しい内容の議論もあった。考えてみればこのような議論ができるのは、この研究会全体にどこかしらアットホームな雰囲気があるからであろう。またそれが大会成功のカギであったのかもしれない。



「第2回オゾン層保護大賞」募集のお知らせ

主催 日刊工業新聞社

目的 オゾン層保護の推進に不断の努力を重ね、顕著な功績を上げた産業界その他の団体、企業、個人を表彰し、今後の保護対策の一層の推進を図ること。

対象

- 1 オゾン層破壊物質の削減に資する技術開発、社会システム整備
- 2 普及啓発活動やその他貢献的取り組み

3 発展途上国のオゾン層破壊物質の削減への協力

4 オゾン層の保護に関する調査研究

募集期間 6月10日まで

応募申込み・問い合わせ先

日刊工業新聞社環境事業部

TEL：03-3222-7204

FAX：03-3222-7469